

# 板橋区の資金管理及び運用状況について

区では、「板橋区資金運用方針」に基づき、会計管理者が管理する資金について、元本の安全性を最重視するとともに、流動性の確保と効率性の追求を図りながら管理・運用に取り組んでいます。

## 1 歳計現金等

歳計現金等とは、区の歳入歳出に属する現金のことで、日々の支払いに準備している現金（歳計現金）と、区の歳入歳出に属さない現金で法令等に基づき区の責任において一時的に受払いをする現金（歳計外現金）をいいます。

### <管理・運用方法>

歳計現金等の管理・運用は、指定金融機関その他の確実な金融機関への預金での保管を基本としており、資金収支の予定を作成することで、受払い状況に支障をきたさぬよう細心の注意を払っています。

### <運用実績の概要>

- 資金収支を精査のうえ、余裕資金を見極めながら機動的に譲渡性預金等で運用しました。
- 令和元年度（平成31年度）の実績は、平均残高が前年度を下回り、定期預金での運用期間が短縮したため、平成30年度と比較すると、運用収入が減少しました。

単位：千円

	令和元年度(平成31年度)	平成30年度	平成29年度
平均残高	13,036,000	14,905,000	10,624,000
運用収入	694	739	283
平均利回り	0.005%	0.005%	0.003%

## 2 基金

地方公共団体が特定の目的のために、財産を維持し、資金を積立て、または定額の資金を運用するために設けた財産で、将来の特定事業への負担に備えるための資金です。一般家庭で言えば貯金にあたるものです。

### <運用方法>

基金は、運用目的及び積立て・取崩し計画を勘案したうえで、金融機関への定期預金や債券等の購入等により運用を行っております。

<運用実績の概要>

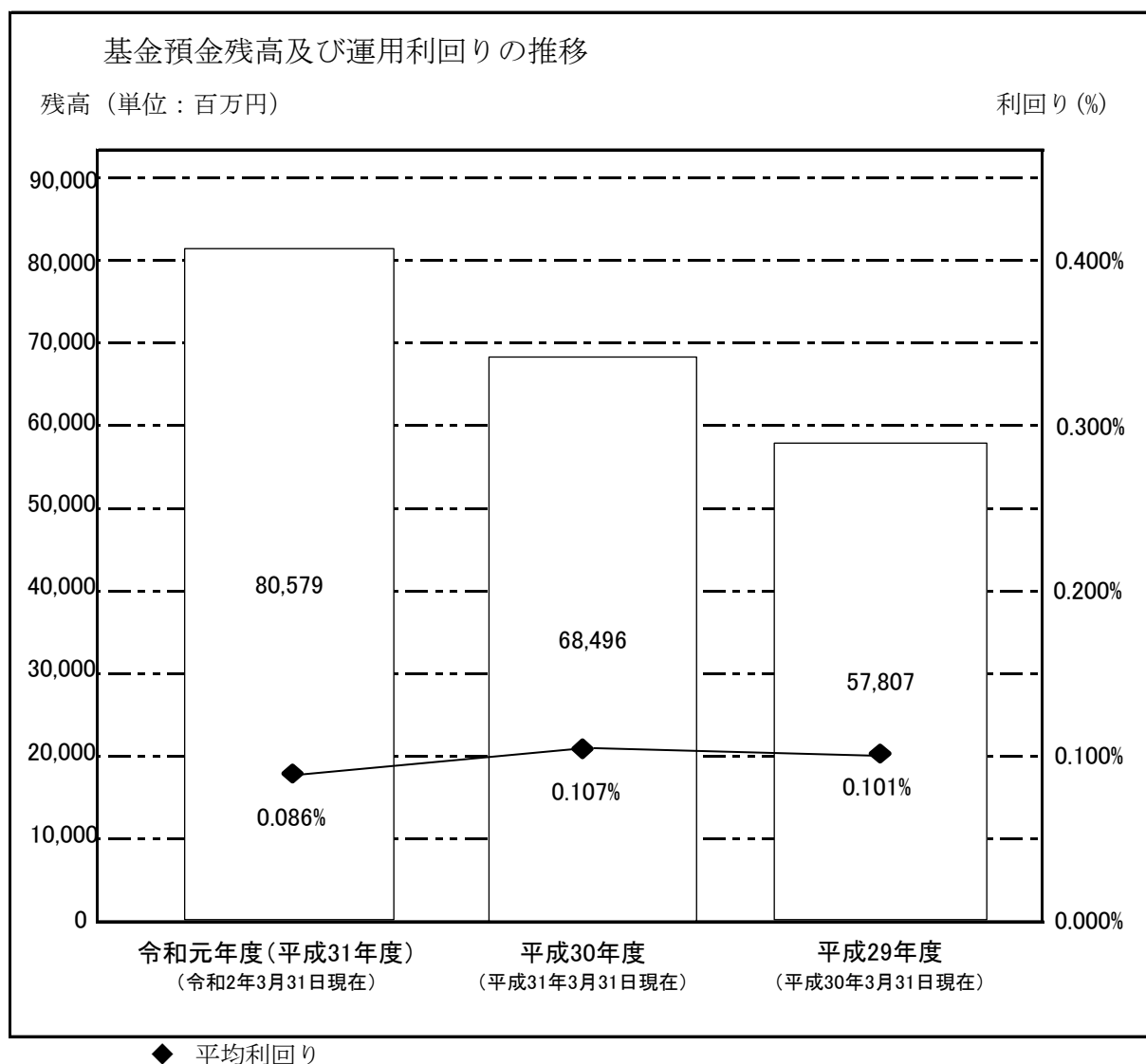
(1) 基金の運用状況

令和元年度（平成31年度）は、前年度に引き続き金利が低迷し、国債の利回りも10年の年限について利回りがおおよそ0%で推移する等、厳しい運用状況が続きました。この状況において、債券の運用を見合わせ、比較的利回りが高い定期預金等での運用を行いました。預金金利の低下により、平成30年度と比較して運用収入及び利回りともに減少となりました。

単位：百万円

区 分	令和元年度(平成31年度)			平成30年度			平成29年度			
	R2.3.31 現在高	運用 収入	平均 利回り	H31.3.31 現在高	運用 収入	平均 利回り	H30.3.31 現在高	運用 収入	平均 利回り	
預金関係	80,579	59	0.086%	68,496	62	0.107%	57,807	52	0.101%	
債券	0	0		0	0		0	0		0
計	80,579	59		68,496	62		57,807	52		

\*平均利回りについては、当該年度の運用収入を前年度末日の現在高で除した数値で算出しています。



(2) 金融機関種別の運用内訳

金融機関の選定では、引き合いを実施し、金利はもとより、格付け会社の評価や区への貢献度等を総合的に判断し決定をしています。

単位：百万円

区 分	令和元年度(平成31年度) (平成31年3月31日現在)		平成30年度 (平成30年3月31日現在)		平成29年度 (平成29年3月31日現在)	
	運用額	割合	運用額	割合	運用額	割合
都市銀行	5,579	6.9%	3,496	5.1%	3,067	5.3%
地方銀行	0	0.0%	2,000	2.9%	3,000	5.2%
信用金庫等	75,000	93.1%	63,000	92.0%	51,740	89.5%
計	80,579	100.0%	68,496	100.0%	57,807	100.0%

\*割合については、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

